



井原市議会9月定例会が9月7日から29日まで開かれています。この度は、12議員が質問しました。森本市議は質問日3日間の2日目の10日に下記の6項目を質問しました。質問と答弁の大意をつぎにお知らせします。

この度の質問で平成元年6月の初質問以来連続106回目の質問になります。また、質問件数は総計661項目となり多くの市民の要望が実現しています。

空家等対策の推進に関する特別措置法の施行に伴った今後の取り組みは。

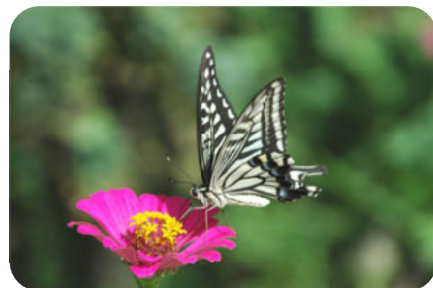
国・県がガイドラインの年度内作成を予定としているので、これを受けて本市のガイドラインを平成28年度に作成したい。

空き家等対策計画を、平成29年度に策定したい。

市民ギャラリーのスポットライト増設と和式トイレを洋式トイレに変更を。

スポットライトの配置は簡単に変更できるので、利用者からの申し出があればその都度対応します。

トイレは、市民の中には洋式トイレを敬遠される方もおられるので現状でのご利用をお願いしたい。



市民病院での受診予約時間が厳守されるよう改善を。

患者様の立場になって、引き続き気配り心配りを大切にして声かけを徹底したい。

市が配布する敬老会参加対象者名簿で、夫婦で一方が施設入所、一方が自宅におられるような場合は、一緒に祝ってあげたいという声がありますが、改善の余地は。

施設入所されている方と在宅の方との敬老行事の委託料が違いますので、現状では難しいが、そういう希望も理解できますので、研究したい。

幼稚園、小学校の遊具撤去の理由と今後の対応は。

撤去した遊具は、昨年度の点検の結果大規模な修繕が必要との指摘があり、指摘を受けた遊具は、園児・児童が使用していない遊具なので撤去した。類似遊具は設置しない。

カワウやコサギの被害に対する対策は。

市だけで取り組むというのは非常に難しい問題で、県が実態調査をするので連携しながら積極的に取り組みます。

この「後援会ニュース」は、森本ふみお市議の  
ブログ (<http://m.okajcp.com>) でも見ることができます。

周りの人に「日本共産党森本ふみお後援会」への入会をお勧めください。

# 日本共産党はこう考えます

しんぶん赤旗

9月18日付

「主張」より

## 戦争法案強行糾弾

## 国会と国民へのだまし討ちだ

戦争法案を審議してきた参院の特別委員会は、前日の地方公聴会が終わった直後締めくくりの総括質疑と採決を強行しようとした鴻池祥肇委員長（自民）への不信任動議を自民・公明などが否決したあと、突然質疑を打ち切り、賛成多数で法案を採決したとして大混乱のなか散会しました。鴻池委員長が不信任動議を否決され席に戻ったあと、審議の再開も動議の提出も委員会室に聞こえていません。委員長席に殺到し、勝手に立ったり座ったりした与党の言語道断な暴挙です。広がる国民の反対世論を踏みにじった安倍晋三政権の暴走です。

### 国会ルールの乱暴な破壊

本来法案の審議に役立てるべき公聴会が終わったあと質疑を打ち切り採決を強行しようとした鴻池委員長の議事運営は、国会のルールを完全に踏みにじる乱暴なものです。しかも日本共産党や民主党など野党の抗議で深夜未明まで委員会が開会できず、17日朝改めて理事会で協議することになっていたのに、朝になって理事会の場所を理事会室から委員会室に変更し、そのまま採決に突き進もうとしたのは文字通りのだまし討ちです。野党が委員長不信任動議を提出したのは当然過ぎる話です。

不信任動議を数を頼んで否決したあと、与党がいっせいに委員長席に詰め掛け、質疑を打ち切り、戦争法案を採決したというのは、まったく審議などとはいえないものです。本来なら委員長不信任を否決した後、改めて理事会で日程を協議すべきです。それも行わず、委員会室でも、同時中継していたNHKでもなにがなんだか分からないうちに散会してしまったのは「採決」などとは呼べません。日本共産党など野党が採決の取り消しを求めたのは当然です。

戦争法案は衆院でも特別委員会で採決が強行されました。法案提出から4カ月、参院で2カ月、審議すればするほど戦争法案の憲法違反の内容が明らかになり、安倍首相自身が集団的自衛権の行使を容認する立法事実さえ説明できなくなり、自衛隊の統合幕僚監部の内部文書などで法案を先取りした軍の暴走が明らかになるなど、文字通りボロボロの状態です。

戦争法案に反対する国民世論は広がり、どの世論調査でも国民の過半数が戦争法案に反対、6割、7割が今国会での成立に反対しています。強行採決に次ぐ強行採決は、戦争法案を推進する道理のなさが明らかになり、国会の中でも外でも反対世論がますます広がるのを安倍政権が恐れたためです。特別委員会での暴力的「採決」にまったく道理はなく、このまま本会議に持ち込み成立させるなどというのは絶対に認められません。

### 違憲の法律は許されぬ

質疑を打ち切り、採決したと称する与党の暴挙は、激しい雨の中、国会周辺に多くの人々が詰め掛け、「強行採決、絶対反対」「戦争法案ただちに廃案」の声をとどろかせる目で行われました。連日連夜、全国で反対行動を繰り広げた国民の怒りの声を踏みにじった安倍政権の責任は重大です。

国民は決して憲法破壊の暴挙を許しません。憲法の平和主義も、立憲主義も、民主主義も破壊する法律は、存続そのものが許されません。国民の怒りをさらに広げ、憲法違反の法律を許さないために力を尽くそうではありませんか。

憲法違反の戦争法案絶対反対



ご意見・ご要望および情報をお気軽にお聞かせください。